

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名（三重県立四日市高等学校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 遍く陰しく、光輝く八稜星のごとく (八稜星) = 四高のシンボル ・ 多方面にわたって発展する若人の情熱を表現。 ・ 「八」は、画一を排し多様な価値観を大切にす懐の深さ、「稜」は高く険しき壁にぶつかっても、心を動かさず耐え忍び、努力で克服する堅忍不拔の心意気を表象。
(2)	育みたい 児童生徒像	(1) 自主・自律の精神(学習面・生活面) (2) 幅広い視野(グローバル・マインドとシチズンシップ(市民性)) (3) 挨拶(相互に尊敬し合う態度)
	ありたい 教職員像	○ 勤務してやり甲斐があり、楽しい。 ○ 教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化がある。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<生徒> 学力の向上、進路保障、部活動や交友関係の充実、安心して過ごせる学級。 <保護者> 教員の学習指導力、進路指導力・対話力、人間関係の育成、安全安心な学校・学級。 <地域> 学力の伸長、人格の形成、豊かな心、リーダーとしての人材の育成。リーディングハイスクール、トップ校としての進学実績。	
		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		<中学校> 四日市高校教員への指導力向上。 <予備校・学習塾> 情報交換や情報共有。 <地域社会> 本校との良きパートナーシップ。 人間教育育成全般への期待(文化行事、文化・運動クラブ団体等)。	<大学・研究機関> 先生方の講義協力(大学出前授業等)。 <予備校・学習塾> 授業改善のための研修などによる協力。 情報交換や情報共有。 <地域社会> 各団体や地域と相互に自立した関係の樹立。 豊かな心の育成、健やかな体の育成。
		・SGHの取組について、アクティブラーニング等の主体的な学習方法を学校全体で取り入れるなど、組織的に、かつ、包括的に益々推進して欲しい。 ・高大連携を推し進めるなかで、探求する力を培う活動を充実させ、積極的に取り組む生徒を増やす一方で、様々な悩みを持つ生徒へのきめ細かな支援体制も充実させていくことを期待する。また、生徒の進路選択に自信を持たせる取組へも繋げて欲しい。 ・教職員の授業改善への熱心な取組は高く評価でき、継続・発展を期待する。	
(4) 現状と課題	教育活動	○本校は、1899年の創立以来、我が国及び国際社会において活躍する多くの人材を輩出しており、三重県を代表する進学校として、生徒、保護者及び県民から大きな期待が寄せられています。とりわけグローバル化や人口減少が進むなか、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む役割が求められています。 ○生徒の視点に立ち、生徒一人ひとりの個性と生きる力(確かな学力、豊かな人間性、健やかな体)の育成を図るとともに、全ての生徒に卒業後も高度で優れた学問を学び続ける質の高い「学力」を培う必要があります。 ○「文武両道」の校是のもと、学習の充実と活発な部活動を効率的、効果的に行っていますが、主体性・多様性・協働性を育むための取組への支援を含めた在り方について考察する必要があります。	
	学校運営等	○生徒一人ひとりが自らの在り方・生き方を確立できるよう、教員との十分な対話の機会を設けるとともに、引き続きスクールカウンセラー等外部人材とも連携し、教育相談体制の充実を図る必要があります。 ○教育活動への献身的な取組が教職員の過重労働を生む土壌となっていることから、業務の精選・重点化を図るとともに教職員相互が協力し合い、助け合う学校組織文化を、より一層、醸成する必要があります。	

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○スーパー・グローバル・ハイスクール事業（SGH事業）（平成26年度～30年度）を契機に新しい高校教育の在り方を研究し、新しい社会の地平を切り拓くリーダーとしての資質を育む高校として、その役割を果たします。</p> <p>○生徒が学力を高めることができる指導を充実させるとともに、探究的・主体的・対話的な学びについて研修を深め、本校独自の学習指導方法を活用し、継続して授業内容の充実に努めます。また、授業時間の確保に努め、学力の保証、充実、伸張に努めます。</p> <p>○生徒一人ひとりの個性の伸長を図りながら同時に、市民性・社会性（シチズンシップ）を育むとともに、本校に集うすべての人々が相互に尊敬し合い認め合う心で挨拶を交わす温かい組織風土を培います。</p>
学校運営等	<p>○生徒の学習状況や生活実態及び学級の状態を把握することにより、学力の向上及びいじめや不登校の未然防止等を図り、生徒の視点に立った理想の学校、理想の学級集団づくりを進めます。</p> <p>○教育計画や指導方法に関する実質的な議論が行えるように、各種委員会の充実や情報交換会、教員同士の授業見学等を充実して組織を活性化させ、教員の学習指導力と生徒指導力の両面を高めます。また、働き方改革にとりくみ、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成します。</p>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果（1月末現在）	備考
SGH事業における人材育成	<p><b>1</b> SGH事業(※注)の中間評価の結果に基づき工夫改善を進め、SGH事業後にその成果が継続できる基盤を確立します。</p> <p>(※注)本校SGH事業の活動内容については、学校HPをご確認ください。</p> <p><b>【活動指標】</b>5本柱の実践的研究</p> <p>① 総合的な学習の時間『グローバル・マインド』</p> <p>② 学校設定教科・科目『グローバル・リーダー学』</p> <p>③ グローバルアクション</p> <p>④ 白熱英語講座</p> <p>⑤ 効果測定</p> <p><b>【成果指標】</b>SGH事業の実践的効果の検証と改善</p>	<p><b>1</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>① 1年生全員が各自課題設定に取り組んだ。また2年生全員が図書文献活用等により論文をまとめることができた。</p> <p>② 1年69名、2年44名合計113名が受講し、グローバル課題に関する専門家の講義にて知見を深めるとともに、海外フィールドワーク、グローバル企業見学や交流活動に積極的に参加した。</p> <p>③ スーパープレゼンテーションや、地域清掃活動等の諸活動に取り組んだ。</p> <p>④ 白熱英語講座をI期33名、II期26名の生徒が受講し、外国人大学教師指導のもと、グローバル課題テーマに英語で討論した。</p> <p>⑤ 効果測定の分析結果を教職員で共有し、今後の指導に役立てる。</p> <p><b>【成果指標】</b>グローバルマインドの研究活動をより充実させるため、2年間通した指導プロセスに改善し、全教職員が生徒指導できる実践マニュアルを作成した。</p>	◎
	<p><b>2</b> 海外フィールドワーク及び海外語学研修を安全かつ効果的に実施します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>生徒総計50名以上が参加できる海外研修の策定</p>	<p><b>2</b></p> <p><b>【活動指標】</b>海外フィールドワークにはカンボジア12名、中国天津12名参加。オーストラリア海外語学研修には30名参加。合計54名の生徒が海外研修に参加し、スーパープレゼンテーション等で成果を共有できた。</p>	※

<p>学習指導 力向上</p> <p>授業の充 実</p> <p>授業時間 の確保</p>	<p>1 生徒が興味関心を示し、内容を理解し学力が向上する授業を実践するために、「授業改善アンケート」を年2回実施し、「説明や発問等の仕方」「教材の準備や提示の仕方」「指導の工夫」等の視点別に教員が自己評価し、改善することにより、授業の質の向上を図ります。</p> <p>【活動指標】授業改善アンケート年2回実施</p> <p>【成果指標】視点別12項目平均点3以上(満点4点)</p> <p>2 習熟度講座、少人数講座等を実施し、理解や定着を図り、生徒の満足度を高めます。</p> <p>【活動指標】学力検討会議・概ね2週間に1度開催</p> <p>3 授業時間を確保するため、年間通して計画的に実施するとともに、自習時間は時間割変更して対応します。</p> <p>【成果指標】自習時間数ゼロ</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】生徒からの授業評価「授業改善アンケート」を年2回(6月、12月)実施し、授業担当者には科目別に視点別12項目結果をフィードバックして授業改善に活かしている。</p> <p>【成果指標】12項目平均点3.44(昨年3.35)であった。</p> <p>2</p> <p>【活動指標】学力検討会議を1年15回、2年12回、3年11回実施し、学習状況から方針を検討して学力向上に努めた。2・3年国語・英語及び3年数学の習熟度講座を開講し、アンケートで高い満足度が得られた。</p> <p>3</p> <p>【成果指標】曜日や時限によって授業時間数が不均衡にならないように計画的に実施。自習時間12時間(28年度12時間、27年度41時間)</p>	<p>◎</p>
<p>学級経営</p> <p>人権教育</p> <p>生徒指導</p> <p>読書推進</p>	<p>1 アンケートや面談を実施し、学級集団の状況や生徒一人ひとりの状況を把握し、親和的な学級集団の育成に取り組みます。</p> <p>【活動指標】個人面談年間3回以上、アンケート1、2学年1回実施</p> <p>【成果指標】学年終了時に全学級が満足型になる。</p> <p>2 SGH事業の取組と連携して人権学習を実施し、人権に対する意識を高めます。</p> <p>【活動指標】人権教育の観点を取り入れた授業、人権講演会、人権学習の実施</p> <p>【成果指標】学年終了時に全学級が満足型になる。</p> <p>3 生徒同士、教職員、外来者等に対して場面に応じた挨拶ができるスキルを身につけるために、生徒会役員、室長、運動・文化部の部長が核となった挨拶運動など、生徒のコミュニケーション能力向上につなげます。</p> <p>【活動指標】生徒を主体とした挨拶推進運動年5週以上実施</p> <p>【成果指標】学校関係者評価委評価「概ね達成できている」以上、授業公開日保護者アンケート「概ね達成できている」以上</p> <p>4 生徒の幅広い視野や思考力の増進・内面の充実を図るため、読書啓発活動を推進し、生徒一人ひとりの主体的な学習支援を行います。</p> <p>【成果指標】生徒一人当たり年間貸出冊数7冊以上</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】個人面談を1年3回、2年5回、3年5回実施した。</p> <p>【成果指標】QU(学級満足度)調査を実施し、すべての学級で満足型の結果であった。</p> <p>2</p> <p>【活動指標】人権教育推進計画をもとに、SGH人権講話や、授業公開時に人権教育観点を取り入れた授業を実施。12月の人権LHRでは学級単位で、学年別テーマの人権学習授業を実施した。</p> <p>【成果指標】人権LHR実施後の生徒アンケートでは高い満足度となった。</p> <p>3</p> <p>【活動指標】生徒会が中心となり、部活動や室長などの協力を得て挨拶運動5週以上実施できた。</p> <p>【成果指標】授業公開保護者アンケート(5段階)では、上2段階が9割前後であった。</p> <p>4</p> <p>【成果指標】教科や学年と連携し、読書課題等を通じて生徒の図書館利用促進を図った。生徒一人当たり年間貸出冊数5.3冊</p>	<p>◎</p>

改善課題

- ・SGH事業が最終年度となるため、これまでの事業成果の継承と普及を検討する必要がある。
- ・高大接続改革や新学習指導要領の対応、主体的、対話的な深い学びの実現にむけて、更なる授業の充実を図っていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果(1月末現在)	備考
現状把握 と組織改 善	<p>1 教科の指導計画や教材の共有化等を図り、教科内の情報交換を進めます。また各教科、科目指導計画の進捗状況調査を行い、学習指導の品質を整え、充実を図ります。また、質、量の両面から生徒の実態に合った課題が提供されているかについて必要に応じて聞き取り、定期的に検証し、適切な家庭学習が行われているかを把握し、生徒の学力向上につなげます。</p> <p>【活動指標】教科会を教科毎に10回以上実施、進捗状況調査の実施、全教員が他の教員の授業に年間1回以上参加してコメント提供。課題の質、量調査結果と学力向上の相関性について分析。成績順位別に任意抽出した生徒から聴き取り、実態を把握し、1学年は6、9月、2学年は6、11月に校長に報告し、改善につなげる。</p>	<p>1</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科・科目でシラバス・学力向上の取組を作成し、情報の共有を行っている。</li> <li>11月末に実施した進捗状況調査では、全教科で概ね予定通りであった。</li> <li>年2回の授業公開日には全教員が他の教員の授業に参加するよう努めている。</li> <li>課題の質・量調査結果と学力向上の相関関係は学力検討会議で随時分析し、量・内容など次回に反映させている。</li> <li>本年度も各学級に1・2学年「学級文庫」3学年「学年文庫」を設置した。</li> </ul>	※
教育相談	<p>2 いじめや体罰の未然防止や早期発見に努め、必要に応じて関係機関とも連携して、生徒一人ひとりの心のケアに努めます。</p> <p>【活動指標】生徒全員の個別面談年間2回、スクールカウンセラー等の校内外の専門家、教育相談担当者、養護教諭と学年会議によるケース会議(※注)の実施 (※注) ケース会議とは、チームで子供を支える教育相談及び特別支援教育の会議</p> <p>【成果指標】長期欠席生徒数が前年度より減少、いじめ・体罰ゼロ</p>	<p>2</p> <p>【活動指標】生徒との個別相談を1、2年3回、3年5回実施した。また保健、教育相談、学年、カウンセラー等のケース会議にて、情報共有、対応方針の検討などを行い、連携して支援できた。</p> <p>【成果指標】長期欠席生徒数は、1年生・2年生ともに昨年より減少した。いじめ認知1件、体罰ゼロ。早期発見早期対応することで、素早く解決できた。</p>	◎
情報提供	<p>3 保護者、生徒との希望を把握した上で進路検討会議を実施し、個に応じた進路指導を組織的に行い、生徒の学力、適性にあった進路を実現します。また、保護者に最新の進路情報を提供するとともに、受験への支援や理解を図ります。</p> <p>【活動指標】保護者面談、生徒個別面談、進路検討会議の実施</p>	<p>3</p> <p>【活動指標】3年は保護者面談2回、生徒個別面談5回、進路検討会議4回実施。1、2年は個別面談3回、保護者面談1回を実施。</p>	
保護者連 携	<p>4 土曜学習会や課外授業(夏期講座含む)を充実させ、個に対応した指導を行います。</p> <p>【活動指標】土曜学習会および課外授業の実施</p> <p>【成果指標】3学年11月時点での第1志望校への出願率70%以上</p>	<p>4</p> <p>【活動指標】 平日課外 3学年(I期):11講座、425名受講。 (II期):14講座、553名受講。 (IV期):前半13講座、432名受講。 後半13講座、372名受講。 2学年(I・II期):延27講座、1338名受講。 夏期課外 1年生:12講座、919名受講。 2年生:18講座、753名受講。 3年生:47講座、2056名受講。 土曜学習会 各学年で計画通り実施。</p> <p>【成果指標】3学年11月時点での第1志望校への出願率82.5%</p>	

<p>学力向上</p> <p>組織活性化</p> <p>組織運営</p>	<p><b>1</b> 定期試験、実力試験、実力養成試験などの他に確認テストや宿題テストなどを実施し、個人及び学年集団の学力を分析し、きめ細かい学習指導を行います。</p> <p><b>【活動指標】</b> 各試験の実施、補習授業等学力補充の実施、各学年の学力検討会議を年10回以上実施</p> <p><b>2</b> 進路主任を座長とする「学力向上戦略会議」(校長直轄)を定期的に関き、授業改善等に先進的な取組を行っている高校の実態の把握、指導方法の工夫、シラバス進捗状況のチェック、学年間情報連携等を行い、学力向上のための戦略と戦術を研究する。</p> <p><b>【活動指標】</b> 年間12回以上実施</p> <p><b>【成果指標】</b> 生徒一人ひとりが学年始めより学年終了時実施の同種の校外模試または校内実力試験において成績向上</p> <p><b>3</b> 各種面談、アンケート調査、ケース会議などの情報、知見をもとに主任会議や各種委員会を定期的に関催して情報共有を図るとともに、校務分掌や部活動の在り方等も含め、継続した学校経営改善に取り組みます。</p> <p><b>【活動指標】</b> 中間評価を実施、改善点の提案各委員会1項目以上提案</p>	<p><b>1</b></p> <p><b>【活動指標】</b>各試験を実施。確認テストは各教科・科目で適宜実施。学力検討会議は1年15回、2年12回、3年11回実施。</p> <p><b>2</b></p> <p><b>【活動指標】</b>「学力向上戦略会議」を12回開催した。</p> <p><b>【成果指標】</b>各学年の各学年の課題解決に向けた取組の提案・現状の共有、次年度以降の戦略等を協議した。</p> <p><b>3</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内規集の整理・見直しを行うとともに、定期的に行う仕組みを構築できた。</li> <li>・各種委員会構成を見直してスリム化を実現できた。</li> <li>・各種委員会から改善点を職員会議にて提案できた。</li> </ul>	<p>※</p> <p>※</p>
<p>働き方改革</p>	<p><b>1</b> 働き方改革にとりくみ、業務の精選・重点化を図るとともに教職員が相互に協力し合い助け合う学校組織文化を醸成します。</p> <p><b>【活動指標】</b>・一斉定時退校(月1日以上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動休養日設定(週1日以上)</li> <li>・会議時間の短縮(60分以内に終了)</li> <li>・教員アンケートの実施(1回)</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b>・年休取得の促進(昨年度比1日以上取得)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総勤務時間縮減(全員が昨年度より減少)</li> </ul>	<p><b>1</b></p> <p><b>【活動指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉定時退校日は1月を除く毎月1日を設定し、ほぼ実現できた。</li> <li>・全部活の週当たり休養日を確認し、後期はほとんどの部活で実現できた。</li> <li>・企画委員会以外の会議は、ほぼ60分以内に終了できた。</li> <li>・「効率的、効果的な運用」をテーマにオフサイトミーティングを実施し、全教職員で共有を図った。</li> </ul> <p><b>【成果指標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年休取得状況は、昨年比1日以上年休取得者は4割弱であった。</li> <li>・過重労働時間の集計では、前年比ほぼ横ばいの結果となった。</li> </ul>	

改善課題

- ・組織的に対応する体制づくりは一定進んできたが、形骸化しないように教育目標の共通理解を図りつつ、改善にむけた取り組みを今後も継続的に行っていくことが必要である。
- ・働き方改革の指標設定から目標達成に向けては、生徒や保護者の理解も得ながら進める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのSGHの取組の成果が着実に蓄積され、生徒の学びの質を高め、進路選択にも好影響をもたらしていることから、SGHの取組を経験した卒業生に対し、進学先等での伸展など、追跡調査からの効果検証を行い、次期へ深化、発展させていくことを期待する。</li> <li>・習熟度別講座や授業評価アンケートなど、授業改善への取組が継続的に行われ、探求する力を培う活動を充実させ、積極的に取り組む生徒を増やす一方で、様々な悩みを持つ生徒へのきめ細かな支援体制も継続・充実させていくことを期待する。</li> <li>・SGHと連携した人権教育も高く評価でき、継続・発展を期待する。</li> </ul>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	SGH事業が最終年度となるため、これまで蓄積した成果を継承しつつ、将来を見据えた探究活動となるように改善する。また、SGHに関する授業やグローバル・リーダー学の講座を公開したり、ホームページに事業成果を積極的に発信したりして研究成果の普及を図る。
学校運営についての改善策	進学校として、高大接続改革や新学習指導要領への具体的な対応方法の研究を進めるとともに、探究活動に対する新たなカリキュラム開発を組織的にすすめていく。